

2. 非鉄金属企業の日常

ー中国・瀋陽市／瀋陽古河電纜有限公司での日常生活についてー

瀋陽古河電纜有限公司 山内 智弘

1. 瀋陽について

瀋陽（奉天）といえば、日中戦争の発端のひとつである「柳条湖事件（満州事変）」の舞台となったことを思い出される方も多いのではないのでしょうか。

その意味で日本人には近代史的にクローズアップされる感のある地域といえますが、瀋陽の歴史自体は長く、7200 年前から古代人が居住していたそうで、春秋戦国時代には燕国がここに城を築いたことで 2000 年には建城 2300 年の祝賀が催されています。

五大十国時代に契丹である遼太祖が移住し、元代には高麗の所管として交通・交易の要所として栄えています。清の前身である後金が都（満州語で隆盛の意であるムクデン「盛京」に改名）を置き、後金が清に国名を変えて北京に遷都した際には副都となって、清の全国統一後には奉天府が置かれました（「奉天」の呼び名はここからで満州国時代は奉天市）。

さらに清代末期には近代工業化が始まり、重工業を中心として発展しています。

今でもその当時の役所や金融機関の建築物がそこかしこに残っており、東京の日本橋あたりを思わせます。

ほかにも清初の皇居である瀋陽故宮は北京の故宮とともに世界遺産に登録されており、皇居建築群のなかでも最もよい保存状態だそうです。皇帝の陵墓も残っており、現在では広大な公園として整備されています。



【瀋陽の街並み①】

中山広場。後ろは旧関東軍司令部】



【瀋陽の街並み②】

大型スーパーと高層マンション

一方で、地震がないせいか 20 階以上の高層ビル、マンション群が立ち並び、欧米ブランドもテナントとして入居しているような大型のショッピングモールがいくつもあ

る大都会でもあります。ただ、最先端ではなく地元感を感じさせるところが、なんとも憎いところ。

気候的には、大陸の北部で寒いというイメージ通り、1月の平均気温はマイナス10度を下回ります。ただ、瀋陽人は寒さ自慢ではなぜかハルビンに敬意を払っているようで、「ハルビンはもっと寒い。あの寒さには比べれば大したことない」と異口同音に言うのが不思議です。

ただ、昨今の温暖化のせいもあるのか、夏場は30度を超えてくるので、夏がこんなに暑いとは聞いてなかったと愚痴っていたのは私です。しかも、かなり乾燥していますので、温暖湿潤地方でしか暮らしたことのない私などはあっという間に喉をやられ、肌はがさがさです。

今後迎える冬を前に低温、低湿度に耐えられるのか、早くも戦々恐々としています。

2. 瀋陽古河電纜有限公司について

そんな瀋陽に超高压電力ケーブル製造会社である弊社は約30年前に現地の電線製造会社である瀋陽電纜と古河電工の合併会社として設立されました。



【瀋陽古河電纜外観】

当時、超高压電力ケーブルは油浸紙による絶縁からプラスチック絶縁への移行期であり、新技術を導入したい瀋陽電纜と中国及び国際市場への進出を狙った古河電工の思惑が一致したものです。

その後、20 年前には古河電工の独資となりましたが、中国の超高压電力ケーブルのトップメーカーの 1 社として業界をリードし、現在でも主に国家电网に電力ケーブルを供給することによって、その電力供給網の拡充に貢献しています。

足下では不動産市場の低迷によって少々景気減速感がありますが、中期的にはなお電力供給の不足感が言われており、超高压電力ケーブルの需要は続くものと考えています。

3. 瀋陽での日常生活について

さて、本題の駐在員の日常生活についてですが、筆者は何を隠そう実は瀋陽に着任したばかりで半年もたっていません。ましてや極寒の冬も過ごしてもいないのに、瀋陽の日常生活の紹介などしてもよいものかと案じざるを得ませんが、それはまた別の機会ということでご容赦いただきたいと思います。

まず住宅事情ですが、瀋陽ではホテルの長期滞在サービスやサービスアパートメントが充実しており、駐在員はそこに暮らしている方が多いようです。

ですので、立地的には繁華街に位置し、いかにも昔ながらの駐在員っぽい暮らしと言ったところかもしれません。私も御多分にもれずホテル暮らしなのですが、個人的にはもっと生活感があるところがいいなあなどと思ったりします。

食事についても、日本料理屋、居酒屋がそれなりに充実しておりますし、ショッピング

モールや街中には洋食レストランなどもありますので、中華料理が苦手な方でもまず困ることはないかと思います。さらに近年はローソンが精力的に出店しており、それこそホテルごとに店舗があるような感じなので、夕飯はコンビニ飯と自虐しつつも、お世話になり続けている人もいます。

私は中華料理が嫌いではないので、赴任当初は近所の個人営業と思しき家庭料理店とかを訪ねていたりしたのですが、基本的には中国の東北料理で、一人では一皿が多すぎるのと脂っこく味が濃いので、もともと薄味の私



【地元の食堂 家常菜（家庭料理のお店）】

は少し食傷してしまいました。お酒のつまみには結構いい感じではあるのですが。

ちなみに、中国ではスマホでのQRコード決済が普通というか、もはや現金が実質使えなくなっており、現地で銀行口座を開設するまでスマホで決済ができなかったのも、お店で現金を支払おうとすると舌打ちをされたり、店主個人の財布からお釣りを出してもらうというようなことが度々ありました。出張者や旅行者が来たらどうなるのだろうか、と今から心配にならずにはいられません。

話がそれましたが、代表的な東北料理は何かと問われると、ぱっと思いつきませんし、日本ではあまり知られてないこともあり、名前をあげても思い浮かべられないでしょう。いわゆる強火で一気に炒める「爆」という調理法で食材を炒めるか煮るかといった料理が多いようです。

食材的にはじゃがいもや茄子、ピーマン、きゅうり、鶏、豚といったあたりは日本と変わりませんが、羊や内臓系、酢漬け白菜や春雨などが多用される点が異なるでしょうか。味付けは基本的に塩か醤油ですが、ニンニク、唐辛子ほかの香辛料で中華料理らしくなります。



【地元料理のメニュー
(2段目右から2つめが鍋包肉)と水餃子】

るのはさすがです。私はやはり定番のニラと豚ひき肉が美味しいと思います。なお、新宿にある老辺餃子館は瀋陽が発祥で、こちらは水餃子ではなく蒸籠で提供される蒸し餃子が名物です。

東北料理以外でも火鍋はもちろん、串焼きのお店も多いです。串焼きは牛、豚、鶏、羊となんでもありで、夏場は店外でビアガーデン化している店もあります。

中華料理以外というと、韓国・朝鮮料理でしょうか。瀋陽市のある遼寧省は北朝鮮に接しており朝鮮族も多くいる関係でしょうが、西塔というロサンゼルスに次ぐ規模の朝鮮族・韓国人街があり、韓国・朝鮮料理屋さんが軒を連ねています。

焼き肉や冷麺は日本の韓国料理店と同様ですが、看板メニューとしては鰻の蒲焼も目立ちます。もちろん日本の鰻の蒲焼とは似て非なるものなので、そういう期待をして訪れるとがっかりとかびっくりします。

その他にも西関美食街というイスラム教のグルメ街があったり、20世紀初め頃に建てられた欧州式・ロシア式建築物が現存する欧州風情街にはバーやカフェ、ライブハウスなどが誘致されていたりして、重層的な歴史的文化的背景を感じさせてくれます。

そんななか鍋包肉という豚肉のフリッターに甘酢を絡めた料理があります。東北料理として有名ではあるのですが、代表的な東北料理というには、なんだか少し毛色が変わっているように感じていたところ、もともとはハルビンでロシア人向けにナイフとフォークで食べられるように考案された料理だそうで、なるほどと納得しました。

あと、忘れてならないのは餃子です。こちらの餃子は基本的に水餃子ですが、その餡によって何種類もメニューがあ

なお、周囲にお店などない立地の工場ですので、お昼は会社の食堂で食べています。麺類もありますが、定食は基本的に東北料理で、仕切り付のワンプレートに数種類の料理を盛りつけてくれます。ご飯（白米）は自分でつぎ放題ですが、饅頭（中華蒸しパン）も選べます。



【社員食堂の風景】



【ある日のメニュー】

（この日はピータン付き。ごはんは自分でよそうので少なめ）】

そんなこんなで朝はホテルのバイキング、昼は会社の食堂と中華料理ばかり食しているとぶくぶくと太ってしまいました。さすがに朝はサラダだけ、夜も自炊で軽めにすることにしました。夕食に先述した家庭料理屋に行くと昼夜かぶってしまうのも一因です。

自炊と言っても、大したことはなく、炒めたり、鍋で材料を煮込んだりするだけの簡単なものですが、問題は食材の調達です。ウォルマートやカルフルといった大型スーパーはあるのですが、居住地が繁華街ですので小ぶりの生鮮スーパーが近場にあまりなく、なかなか小回りが利きません。

特にお肉はパック売りではなく、お店の人に切ってもらって量り売りというスタイルが多いので、大きな肉塊、常温管理！の時点で気持ちが萎え、かつ言葉が通じないので、とても購入に挑戦しようと思えません。もっとも、これは生活感のある市場に行くともっと顕著になったりするので、我ながら一貫性はありませんが。

調味料も和風の醤油、料理酒、みりん、めんつゆといったものはなかなか売ってないので、通販で調達したりしました。通販では日本からの輸入代行もあるのですが、中国人の身分証明書が必要で日本のパスポートでは登録できなかったりします。日本よりもむしろIT化が進んでいるので、この身分証明関連は結構やっかいで、身分証明として日本のパスポート番号を受け付けてくれなかったりするシステムが存在します。瀋陽では地下鉄の乗車システムが非対応なので、スマホをかざして改札を通過することができません。当然中国人はそのことに気づけないので、瀋陽市政府窓口との懇談の際に

日本人会から改善を訴えたりしています。

地下鉄の話題になったので、交通事情についても少し述べます。

自動車は普通に多く、朝晩はそれなりに混みます。現在は地下鉄の建設が着々と進行中で、工事期間中はその影響で多少渋滞も発生していますが、完成の暁には多少緩和されることでしょう。

また、シェアサイクル・電動バイクも充実しています。数十年前でしょうか、上海でシェアサイクルが導入されたときは、自転車が使い捨てのように手荒く扱われているので、中国でシェアシステムなどととても成り立たないのではないかと思った記憶がありましたが、ちゃんと維持、整備される体制ができあがっていて、すっかり定着しているので、少しばかり見直しました。

ただ交通マナーはかなりひどくて、特に電動バイクが歩道を音もなくやってきて、脇をすり抜けていくのは大変な恐怖です。幹線道路では自動車の駐車エリアがなぜか歩道上に設置されているので自動車が歩道に侵入してきますし、二輪車レーンがある道路でも、そこにはほぼ自動車が駐車されていることから、逆走を含めて二輪車が歩道と車道を縦横無尽に走行していますので、全方位警戒が必要です。赤信号でも右折はOK（右側通行）なので、横断歩道を渡る時には左後方からやってくる右折車にも特に要注意です。日本と違って歩行者優先ではないので（ルール上はそうかもしれないのですが、運転手の意識としてはまったく感じられない）、とにかく歩道だろうが、信号のある横断歩道だろうが、指差称呼しながら緊張感をもって歩いています。

ところが先日、片側三車線計六車線の広い道路の信号のない横断歩道を渡ろうとし



【信号機がなくとも車が停まる横断歩道】

たところ、なんと横断歩道の手前で車が止まってくれるではありませんか。信号のある交差点では赤信号への変わり端でがنگん突っ込んでくるので、なんというか信号のある横断歩道よりよほど安心感がありましたが、なぜそこでは止まってくれるのか、まったく理解できません。日本人とは異なる思考回路が働いているとしか思えませんが、道を歩くときの危険回避ポイントが分かってきたなあと思っていたところで、こんなことに気づきますので、ことほど左様に異文化を理解するのは、ほんと奥が深いと感じ入る次第です。

以上